

歯科用知覚過敏抑制材料
歯科用シーリング・コーティング材

HysNON ヒスノン Q & A

もくじ

使用方法 に関する Q&A

- Q1. 使用上の注意点は？ P.3
- Q2. 塗布に利用可能な器具は？ P.3
- Q3. 市販のマイクロブラシでも使用可能ですか？ P.3
- Q4. こすり塗りが必要ですか？ P.3
- Q5. 重ね塗りは必要ありませんか？ P.3
- Q6. 塗布 5 秒後に必ず水洗が必要ですか？ P.3
- Q7. A 液と B 液の混和液はいつまで使えますか？ P.3
- Q8. 塗布前に歯面清掃以外の歯面処理は必要ですか？ P.4

知覚過敏抑制効果 に関する Q&A

- Q1. 知覚過敏抑制効果は？ P.4
- Q2. ヒスノンが Hys 抑制に優れている理由は？ P.4
- Q3. 歯面上に生じる析出物の組成は？ P.4
- Q4. Hys 抑制効果の持続性は？ P.4
- Q5. 歯面上の析出物はブラッシングで無くなりませんか？ . P.4
- Q6. 生 PZ 症例で TeC 除去後の Hys 疼痛にも有効ですか？ . P.4

形成面などへの塗布 に関する Q&A

- Q1. ヒスノンは形成面に使用できますか？ P.5
- Q2. 形成面への塗布後、接着阻害を起しませんか？ P.5

安全性 に関するQ&A

- Q1. B液中のリン酸での脱灰や歯肉・頬粘膜への刺激は？ ・ P.5**

その他 に関するQ&A

- Q1. ボトル1本で何滴採取できますか？ P.5**
- Q2. 1滴の採取で何歯に塗布できますか？ P.5**
- Q3. 使用して Hys 抑制効果が十分でない場合は？ P.5**
- Q4. 保険請求が可能ですか？ P.6**
- Q5. ヒスノン他にどのような特徴がありますか？ P.6**

使用方法

Q1. 使用上の注意点は？

- A1.** ①白色の A 液ボトルを振ってからご使用ください。
②A 液 B 液の混和後は直ちに綿球等で患部にタッブリ塗布してください。

Q2. 塗布に利用可能な器具は？

- A2.** 綿球を使用する方法が簡便です。綿球を用いると多めの混合液（A 液 3 滴 B 液 3 滴）でも 1 回で採取でき、塗布面積の多い複数歯でもストレスなく 楽にタッブリ塗布できます。

Q3. 市販のマイクロブラシでも使用可能ですか？

- A3.** 塗布面積が少ない場合は [液採取→塗布] を繰り返すことで使用可能です。

Q4. こすり塗りが必要ですか？

- A4.** こすり塗りは **不要** です。
塗りムラや塗り残しが無いよう、混合液をたっぷりと患部に塗布してください。

Q5. 重ね塗りは必要ありませんか？

- A5.** 重ね塗りは **不要** です。
塗りムラや塗り残しが無いよう、混合液をたっぷりと患部に塗布してください。

Q6. 塗布 5 秒後に必ず水洗が必要ですか？

- A6.** いいえ、塗布時間 1 分後の水洗でも問題ありません。

Q7. A 液と B 液の混和液はいつまで使えますか？

- A7.** 2 液を混和してから **40 秒以内** にお使いください。
混和後 40 秒を過ぎますと歯質との反応性が低下し、効果が減弱する場合があります。

Q8. 塗布前に歯面清掃以外の歯面処理は必要ですか？

A8. エアー乾燥等の歯面処理は **不要** です。

なお、歯面清掃が難しく、歯面の汚れが少量である場合には、歯面清掃をせずに塗布しても効果を発揮します。ただし大量のプラークや歯石等はできるだけ除去してください。

知覚過敏抑制効果

Q1. 知覚過敏抑制効果は？

A1. ヒスノンの象牙細管封鎖率を調査した文献¹⁾によると、ヒスノン1回の塗布で封鎖率は100%であったとの報告があります。

Q2. ヒスノンが Hys 抑制に優れている理由は？

A2. 塗布した瞬間、歯面と化学反応して象牙細管開口部 (Hys の原因) がほぼ完全に封鎖するからです。(※製品パンフレット 特徴 1. 参照)

Q3. 歯面上に生じる析出物の組成は？

A3. 主な析出物は耐酸性のリン酸シリケート、リン酸カルシウム、フッ化カルシウム未反応ガラス微粒子です。

Q4. Hys 抑制効果の持続性は？

A4. 数ヶ月～半年以上という報告があります。

Q5. 歯面上の析出物はブラッシングで無くなりませんか？

A5. 簡単には **無くなりません**。

歯ブラシ摩耗試験 (歯ブラシ硬さ=ふつう, 250g 圧, 1000 往復) 後であっても、象牙細管は開口しなかったことが確認されています。(※製品パンフレット 特徴 3. 参照)

Q6. 生 PZ 症例で TeC 除去後の Hys 疼痛にも有効ですか？

A6. はい、有効です。

生 PZ 形成後にヒスノンを塗布しておけば TeC 除去時の Hys 疼痛も抑えられ、TeC 除去直後にヒスノンを塗布することで局所麻酔が不要となります。

形成面などへの塗布

Q1. ヒスノンは形成面に使用できますか？

A1. はい、使用できます。

塗りムラ塗り残しがないように、タツプリと塗布してください。

Q2. 形成面に塗布後、接着阻害を起しませんか？

A2. 接着阻害を起しません。

ヒスノン塗布後の象牙質において各種レジンセメントやボンディング材の接着力に悪影響がないことが確認されています。(※製品パンフレット 特徴 6. 参照)

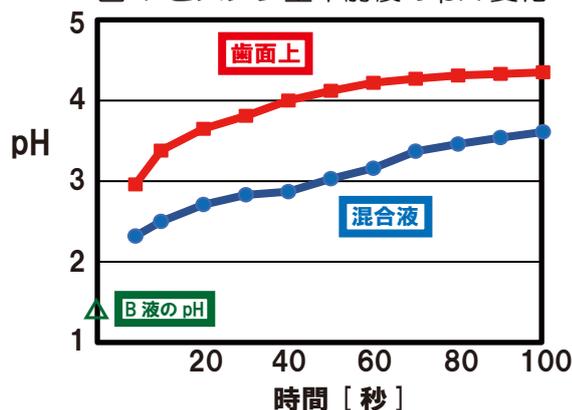
安全性

Q1. B 液中のリン酸での脱灰や歯肉・頬粘膜への刺激は？

A1. 混和液は pH≒2.3～3.0(炭酸飲料と同じ酸性度)なので、歯肉や頬粘膜が沁みることはありません。

歯面塗布後 pH≒3.0～4.2 に変化するため脱灰も有りません。(図 1 参照)

図 1 ヒスノン塗布前後の pH 変化



その他

Q1. ボトル 1 本で何滴採取できますか？

A1. A 液、B 液それぞれ 約 100～120 滴採取可能 です。

Q2. 1 滴の採取で何歯に塗布できますか？

A2. A 液、B 液それぞれ 1 滴採取で、少なくとも 1～2 歯 は塗布可能です。

Q3. 使用して Hys 抑制効果が十分でない場合は？

A3. ヒスノンが効かないときは、未塗布の部位があるか歯髄炎の症例が考えられます。

Q4. 保険請求が可能ですか？

A4. 以下の処置を行った場合に請求可能です。

- **知覚過敏処置**

… 1 口腔 1 回につき所定の点数を算定

- **象牙質レジンコーティング**

…生活歯歯冠形成を行った歯に対して、象牙細管の封鎖を目的として、コーティング処置を行った場合に、1 歯につき 1 回限り算定

Q5. ヒスノン他にどのような特徴がありますか？

A5. ヒスノンには優れた Hys 抑制効果以外に、

①塗布した歯質（象牙質、エナメル質）を耐酸性に改質

②フルオロアパタイトでも脱灰する超過酷な酸蝕条件（pH2.7 のコーラ飲料中に 2.5 時間 /37℃）に耐える耐酸性

③30 μm 以上のエナメル質マイクロクラックも瞬時に封鎖が可能

といった特徴があります。

上記の特徴のデータや幅広い使用目的については、製品パンフレットをご参照ください。

参考文献

1) 藤巻龍治, 鈴木二郎, 武藤徳子, 石井信之, 新規知覚過敏抑制材の象牙細管封鎖性に関する研究, 日本歯科保存学会 2024 年度秋季大会 (第 161 回)P49